

東京は公共交通網いと發達したれば、自家用車はほぼ不要なり。米國の首都ワシントンに於て現在は地下鐵網整備せられたるが、遠く東京に及ばず。加ふるにタクシーは相乗りが常識なりき。吾が住みし頃の一九六〇年代前半には地下鐵もなく、バスのみが公共交通手段にて、運轉免許取得は必須なり。當時は十六歳にて免許取得可能にて、近隣州には十四歳にても取得可能なところありき。

學生はスクールバスの送迎ありて、朝八時三十分頃指定の場所に停車す。乗り遅るれば、親が學校まで送るの外なし。歸路は午後三時頃に學校より各方面に向け出發する十數臺のバス門前に停車してあり。課外授業ある學生は午後五時頃出發するバスに乗車するが常なれども、乗り遅るれば、親の迎へに來らんも恃まれず、如何ぞ家路を辿るの由あるべき。ただし、特別の場合、時間外にバス運行す。例へばケネディ大統領暗殺せられたる日は、校長より全校生徒に對し、即刻歸宅せよとのアナウンス流る。於是生徒ごとごとく門を出でしこと、今なほ記憶に新たなり。

免許取得は日本の如き大仰なるものならず、簡單なる筆記試験にて假免許を取得す。その後二十五歳以上の運轉免許證所持者の同乗するを條件にて、運轉すること可能なり。ただ、両親のいづれなりと助手席に坐るや、やれブレーキ踏むの遅し、ハンドルの切り方悪し、ギヤの切り替へ未熟、信號替れば早く發信せよ等々口やかましく、騒々しきことこの上なし。假免許取得後、一カ月にて免許證を取得せり。當時の我が家の車は、ダットサンのフェアレディとフォードのサンダーバードにて、自らはオートマチック車のサンダーバードにて試験場に赴く。白長須鯨の如く、車の前面せり上がり、車幅は廣く、ここもと小柄なれば左の窓外を見るに難儀あり、勘に頼りて運轉す。車は外交プレートにて、半ば治外法權の通ずるあれば、警官に停車を命ぜらるるは稀なれども、それがしの小柄なるを、子供の運轉すると疑ひたればにや、たびたび免許證提示を強要せらるる。翌月、父より、五段シフトのフォード・ムスタングを與へられたり。つい浮かれてアクセルを踏み續くれば、車は騎虎の勢にて能く制御するなく、氷の上を滑走し大木に激突して畢んぬ。

汝の趣味は何ぞやと問はれなば、「運轉」と答へん。同乗者なき氣儘のドライブは殊に楽しけれども、東京都心の如きは、公共交通の發達して餘りあり、何ぞ車を用ゐるの要あらんや。

(平成二十七年十二月十四日受附)